

## はじめに

2019年度の後半からほぼ2年、新型コロナウイルスの感染症拡大に世の中が翻弄されつづけ、経済・文化・教育・スポーツ界等々の発展に大きな影を落としました。

そんな中、1年延期になっていた「東京オリンピック・パラリンピック」は、無観客ながらも開催にこぎつけ、日本はもちろんのこと世界中のアスリートたちが、開催に対する「感謝」の想いを全身で表現し、見ている者に多くの感動を与えてくれました。

その後、感染症拡大はワクチン接種等の進捗により、一旦落ち着きを見せ、当たり前の日常を取り戻しつつありましたが、オミクロン株による急激な感染拡大が不安を募らせています。

そんな中、各学校におかれては、感染症拡大に神経を使いながらも、「**ワンチーム・チーム学校**」としての意識を共有し、日々の教育活動の推進に取り組んできたことと思います。

小学校においては昨年度から、中学校では本年度から「**新学習指導要領**」が全面実施されました。児童生徒の学力の定着・向上に向けて、授業改善を柱に据え、それぞれの学校が自校の「**強みと弱み**」を的確に分析し、成果の継続と課題克服に取り組んできています。

その取り組みの結果は、「**全国学力学習状況調査**」「**標準学力調査**」「**高知県版学力定着状況調査**」その他にも学校独自の学力定着状況の検証によって明らかになっています。

本年度に実施された諸調査においては、成果も見えた半面、学校間や学年及び教科によっては厳しい実態もあり、学力の定着・向上に課題も浮かび上がってきました。各種の調査結果を真摯に受け止め、学校全体で意思疎通が図られ、無限の伸びしろがある四万十市の子ども達が、さらに生き生きと活動し、その輝きが増していけるよう創意工夫された意欲的な取り組みが推進されることを願います。

また、四万十市の教育課題のひとつに不登校問題があげられます。学校現場では配慮の必要な子どもが増え、発達障害等も含めた子どもの特性を十分に把握し、個々の成長に結びつけるための具体的実践に創意工夫されていることと思います。

しかし、残念ながら「**不登校**」並びに「**不登校傾向**」「**登校しぶり**」等の児童生徒数は増加傾向にあります。別室登校等で個に応じた指導が行われている一方で、学校にもふれあい学級にも登校・通所することができず、ほとんどの時間を家庭で過ごしている「**引きこもりの子ども**」が多くいることも事実です。今一度、学校・家庭・関係機関が連携を強化し、ともに歩んでいくことで未然防止に向けた取り組みを充実させていきましょう。

本年度も各校の校内研修、各サークル・各種部会からの活動の集約を「**教育しまんと**」にまとめました。「**サークルⅠ**」に替わる「**授業づくり講座**」等に関しては、各学校で計画的に取り組まれ、可能な限りの積極的参加をいただきました。ご協力に感謝申し上げます。本年度の集約を踏まえて、次年度への取り組みに反映していきたいと考えております。

教育研究所並びに教育研究会の諸事業にご理解、ご協力頂きましたことに心より感謝申し上げます。今後益々、四万十市の教職員の研修等が充実・発展出来るよう共に歩みを進めていきましょう。

令和4年3月吉日

四万十市教育研究所  
所 長 藤原 昭彦